

ultrafabrics
holdings
Uf

Sustainability Report
2020



CONTENTS

02	トップメッセージ
06	特集 植物由来原料を活用した初の商品 「Ultraleather® Volar Bio」を発売
08	Our Sustainability
10	PRODUCT QUALITY & HEALTH 品質と安全
16	MATERIAL INNOVATION イノベーション
20	TRANSPARENCY & ACCOUNTABILITY 透明性
24	事業概況
28	コーポレート・ガバナンス

編集方針

本レポートは、ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社及び日本子会社である第一化成株式会社（第一化成）、米国子会社であるUltrafabrics Inc. (Ultrafabrics)のサステナビリティに対する考え方を示し、またそれに基づく具体的な活動内容を報告するものです。

2020年度版では、当社の事業活動をステークホルダーの皆様にご紹介することを目的に、2019年9月に発売した植物由来原料を活用した初の商品「Ultraleather® | Volar Bio」を特集記事としてまとめました。サステナビリティ活動の詳細については、当社が今年度より採用したサステナビリティフレームワークである「品質と安全性(Product Quality & Health)」「イノベーション(Material Innovation)」「透明性(Transparency & Accountability)」に分類して報告しています。

報告対象期間

本レポートでは、原則として2019年1月1日～2019年12月31日の活動を対象としています。一部の活動内容については対象期間外のものも含まれます。

報告対象範囲

本レポートは、ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社及び国内外の子会社を含めたグループの取り組みを報告しています。





Touch the Future

私たちのビジョンは、質の高い成長のために
私たちが実現しなければならないことを示しており、
私たちの日々の行動指針となっています。

People (人):

多様で開かれた環境の下、
グローバルな人材育成に取り組めます。

Products (製品):

高い機能性と信頼される品質で、
人間の感性に訴える製品を提供し続けます。

Planet (地球環境):

製品のライフサイクルを通じて、
製品が環境に及ぼす負荷を管理し、
持続可能な社会の発展に向け事業と
環境保全の両立に取り組めます。

Partners (パートナー):

パートナーとの協力を通じて
新しい技術や素材を積極的に取り入れ、
利用者の期待に応える製品を開発し続けます。

Profit (収益):

企業市民としての責任に配慮しつつ、
長期的な株主へのリターンを最大化します。



代表取締役社長

吉村 昇

未来を見据えた前向きな変化を志向し、 グループ一体となって 社会の課題に向き合う

私たちのミッションは、高い機能性と信頼される品質で、使う人の感性に訴える製品をお客様にお届けすることです。当社グループでは、オフィス家具から自動車・航空機、ファッションに至るまで幅広い業界にまたがる様々なニーズを、米国を拠点とするUltrafabricsが顧客から収集し、第一化成が日本の技術によって製品化・生産し、旗艦ブランドであるUltraleather®やBrisa®をはじめとするブランドのもと1,000以上に及ぶ製品を世界中のお客様にお届けしています。

現在世界には地球温暖化をはじめとする気候変動や資源問題から多様性豊かな社会づくりに至るまでサステナビリティに関する様々な課題が存在します。私たちは今後も事業を持続的に成長させていくために、これらの多くの課題と向き合う必要があると理解しています。限られた資源への依存を減らすために、自社製品をよりサステナブルに設計する取り組みも、その一つです。2019年9月には再生可能な植物由来原料を原材料の一部に使用することにより、高い植物由来原料比率を実現した「Volar Bio」を発売しました。当社グループではこの取り組みを更に推進していくために、2025年までに新商品の50%にバイオ原料またはリサイクル成分を含むこと、2030年までにはその比率を100%まで引き上げることを新たに目標に掲げました。

更にこうした取り組みをグループ全体で推進していくために、当社グループでは「品質と

安全(Product Quality & Health)」「イノベーション(Material Innovation)」「透明性(Transparency & Accountability)」をサステナビリティ活動の3つの重点領域に特定し、健康に配慮した素材・原材料の採用、地域環境の保全、エネルギーや資源の効率的な使用、サプライチェーンを通じた透明性の向上など各領域で長期目標を設定し、その達成に向けた活動を開始しました。

もちろん目標の達成には、お客様、地域社会、サプライヤーなどあらゆるパートナーとの連携や協力が不可欠です。更にイノベーションや従業員一人一人のリーダーシップにより課題を解決し、パートナーの皆様とともに成長を実現していくために、グローバルなプラットフォームの下で多様な人材が活躍できる組織づくりを推進し、未来を見据えた前向きな志向を持った人材を育成していきます。

2020年は、オリンピックを開催する日本にとって特別な1年になります。私たちはサステナビリティ活動を推進し持続可能な社会の実現に貢献するとともに、高い技術力、日本特有の繊細さ、そして伝統と革新を併せ持つ素材を世界中のお客様に届けることで、あらためて日本の素晴らしさを世界に発信する一翼を担うことを目指します。



取締役

ダニエル・ベッカー・プリマック

Ultrafabrics Inc.
取締役President

取締役

クレイ・ローゼンバーグ

Ultrafabrics Inc.
取締役CEO

Ultrafabricsでは2019年、製品開発・製造プロセス・地域社会への貢献に至るまであらゆる領域で当社グループが持続的な成長を実現するための課題を外部アドバイザー協力のもとで抽出し、お客様を含むステークホルダーの皆様の重要度を踏まえ、ウルトラファブリックス・ホールディングス、第一化成とともにサステナビリティ活動の重点領域を特定しました。今後グループ各社とともに、各重点領域で設定した長期目標の実現に向けた活動に取り組んでまいります。

私たちは個社としての取り組みに留まらず、リーダーシップと積極的な情報発信を通じてお客様とともにサステナブルな未来を創ってい

くことを目指します。サプライヤーには、啓発、透明性、信頼などこれまでと異なる価値の提供が求められており、当社もパネルディスカッションやワークショップなど様々なイベントを通じて持続可能な社会の実現に向けた課題や解決策を提示し、ステークホルダーの皆様とより良い事業の在り方を模索しています。また、こうした取り組みを通じて新しいビジネス機会が創出されています。

Ultrafabricsは、新しく開拓した市場でより多くのお客様に私たちの製品を届け、企業市民としての責任に配慮しつつ更に成長していくことを目指します。



取締役

田中 勉

第一化成株式会社
代表取締役副社長兼技術管掌

取締役

中川 豊彦

第一化成株式会社
代表取締役社長

2019年9月、パートナーであるサプライヤーと長年にわたり開発を進めてきた当社初のバイオ製品「Volar Bio」を発売しました。当社は、サプライヤーとの協力により開発されたバイオ原料やリサイクル成分を含む基布、樹脂、染料などを活用したポリウレタンレザーの開発に引き続き取り組んでまいります。2020年には第一化成のソフトでしなやかな衣料用レザーの技術と環境に配慮した原材料との融合によるハイエンドのファッション業界向け製品の発売を予定しており、今後も新たな挑戦を通じた持続可能な製品の開発を推進してまいります。

業務・製造プロセスの分野では、Ultrafabrics

との統合後、グローバルな品質管理及び環境マネジメント体制の構築及び強化に取り組み、自動車業界向けの国際的な品質マネジメントシステム規格であるIATF16949の認証、環境マネジメントシステム規格であるISO14001の認証を取得しました。これからもサステナビリティレポートなどを通じて当社の活動状況について積極的に報告を行い、ステークホルダーの皆様からのフィードバックを活かして継続的な改善を図ってまいります。

今後も環境配慮型商品の研究開発や製造プロセスの継続的な改善を通じて事業の環境負荷低減を推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

特集

植物由来原料を活用した初の商品 「Ultraleather® | Volar Bio」を発売

2019年9月、ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社の米国子会社である Ultrafabrics Inc.は、「Ultraleather® | Volar Bio」の発売を発表しました。当社グループでは、人と環境に優しい製品をお客様に届けることを目指し、限りある資源への依存を減らす取り組みを推進しています。「Volar Bio」は再生可能な植物由来原料を原材料の一部に使用することにより、高い植物由来原料比率を実現しました。ポリカーボネート系ポリウレタン樹脂にはトウモロコシ由来成分から合成されたポリオールを樹脂原料の一部に使用し、綾織基布には木材パルプを原料とする繊維をその一部に使用しています。

当社グループは資源を保護し、人と地球環境を守る革新的な製品を開発することを目指しています。「Volar Bio」の開発は、当社グループの持続可能な社会の実現に向けた取り組みの第一歩です。当社グループではこの取り組みを更に推進していくために、2025年までに新商品の50%にバイオ原料またはリサイクル成分を含むこと、2030年までにはその比率を100%まで引き上げることを目標に掲げています。当社グループは、製品の品質、製品の開発と原材料に関する透明性を含むあらゆるサステナビリティの課題に取り組んでまいります。

バイオ原料またはリサイクル成分を含む新商品比率のKPI

2019年
初のバイオ製品
発売

バイオフィアードプログラム 認定

Volar Bioは、機能性とサステナビリティを念頭に置いて開発され、29%のバイオ原料を含む製品としてバイオフィアードプログラムの認定を受けています。バイオフィアードプログラムはアメリカ合衆国農務省(USDA)が推進する取り組みで、消費者にバイオ製品に関する有益な情報を提供しています。





製造・製品開発のキーマンに聞く

外観や耐久性を損なうことなく、
環境に優しい製品開発への取り組みを進めます。

中川 豊彦

ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社 取締役 兼
第一化成株式会社 代表取締役社長

高性能ファブリック業界のリーダーとして、私たちはお客様のニーズに応え続ける使命を負っています。当社製品の特色である美しい外観や耐久性を損なうことなく更にサステナブルなものにするため、4年以上にわたり原材料メーカーとの緊密な連携・協力のもと、植物由来の成分を含む独自原料の開発を進めてきました。当社は、このバイオ製品をお客様にお届けするとともに、新しい方向へと製品開発の舵を切り、更に環境に優しい未来に向けた取り組みを推進してまいります。



2025年
50%

2030年
100%



Helsinki Fashion Week

持続可能な社会に向け、
ファッション業界の高い要求水準に応えます。

世界初のサステナブルなファッションウィークとして注目されたヘルシンキファッションウィーク（「HFW」）は、業界の枠を超えたコラボレーションを通じて、「ファッション」と「持続可能性」に関する様々な課題に取り組む先駆的なプラットフォームです。2019年7月に開催されたHFWでは、Ultrafabricsも、日本とオーストリアを拠点とするファッションブランドであるSHOHEIへの素材提供を通じてバイオ素材展示コーナーに出展するとともに、持続可能性に様々なアプローチで取り組む参加者のパネルディスカッションに登壇するなど、当社の取り組みを積極的に情報発信しました。

ファッション業界では欧州を中心にキープレーヤーが二酸化炭素排出量の削減、サプライチェーン全体を通じた透明性の向上、水の使用量や廃棄物の削減など様々な分野で独自の目標を設定するなど持続可能性を戦略の中核に据えた取り組みを推進しており、当社もファッション業界の高い要求水準に応える商品の開発を通じてサステナビリティへの取り組みを更に推進していきます。



Our Sustainability

持続可能な社会の発展に向けた私たちの取り組み

当社グループでは3つの重点領域を特定し、
持続可能な社会の実現に向けた活動を推進しています。

品質と安全
PRODUCT QUALITY &
HEALTH



- 長期間使える最高品質の製品をお客様に届ける
- より健康と安全に配慮した素材や原材料を採用する
- 排気・排水に含まれる危険物質の管理を徹底し、従業員と周辺環境の安全を確保する

イノベーション
MATERIAL
INNOVATION



- バイオマス・リサイクル原料の比率を高め、より循環型社会に適した製品に移行する
- 資源の有効活用を促進し、廃棄される原材料や製品在庫の削減に取り組む
- 事業活動における効率的なエネルギーや水の使用を推進する

透明性
TRANSPARENCY &
ACCOUNTABILITY



- 従業員の幸福と豊かな地域社会を実現する
- サプライチェーンを通じて人権の尊重と原材料に関する透明性を確保する
- 透明性と責任のある経営体制を確立する

2019年の主な活動



マネジメント

- ▶ ISO14001の認証取得に向けた環境マネジメントシステムの構築
- ▶ IATF16949の認証を取得



研究開発

- ▶ 製品のバイオマス・リサイクル原料比率を高めるための研究・開発



原料調達

- ▶ 原材料のトレーサビリティ向上に向けたサプライヤーとの各種取り組みを開始



製造

- ▶ 工場で使用されるエネルギーの原単位あたりの使用量削減目標を設定
- ▶ 不良品率、廃樹脂量の徹底管理などによる製造工程の無駄削減



運搬

- ▶ 空輸を削減し、海運による輸送割合を高めることにより輸送時の使用エネルギーを削減



保管

- ▶ 重機運転資格の管理や庫内業務の継続的な研修徹底による安全な労働環境維持



マーケティング

- ▶ バインダーボックスやサンプル送付用パッケージをリサイクル原料使用品に変更



製品

- ▶ 植物由来原料を活用した初の商品「Ultraleather® | Volar Bio」を発売
- ▶ 慈善団体や教育機関への寄贈による訳あり品(品質に問題はないものの、色むらなどを理由とした顧客からの返品)の再利用



PRODUCT QUALITY & HEALTH

品質と安全

「匠の技術」で長期間 使用できる最高品質の製品を お客様にお届けします

卓越したデザイン性と優れた機能、そして柔らかな風合いやしなやかな触感により当社の湿式ポリウレタンレザーはアニマルフリーでありながらラグジュアリーなレザーとして家具や建築をはじめとするあらゆる業界のお客様に高い評価をいただいています。更に本革やPVCに比較して軽量という特色により、走行時や運行時の二酸化炭素排出量削減を目指す自動車メーカーや航空機メーカーにも採用いただいています。

私たちは最新の機械設備の活用だけでなく、高度な技術・デザイン等専門知識及び経験をもった専門家が目で見て、手で触り確かめるプロセスを繰り返すことによりジャパンブランドを名乗るにふさわしい最高品質の製品をお届けするとともに、その品質や特色を長期間にわたってお客様に享受していただけるよう、基布や樹脂など各種素材に関する研究開発や製造プロセスの高度化に継続的に取り組んでいます。

Designed for Longevity

長期間使える最高品質の製品

私たちは、長期間使える最高品質の製品をお客様にお届けするための長期的な目標を設定しています。

長期目標

▶ 耐久性や製品寿命に関する検証を進め、更に長期間にわたり高い品質を維持する製品をお客様に届ける

匠の技術

私たちの製品は、風合いや触感、色やデザイン、無臭性など主観的な感性に訴える特性により利用者の快適さを追求しています。何を最も良いと感じるかは人によって異なることから、製品開発においては、当社グループとお客様企業のデザイナーや調達部門が初期段階から緊密に連携します。このような主観的感性に訴える品質は、最新の機械設備の活用だけではなく、高度な技術・デザイン等専門知識及び経験をもった専門家が目で見て、手で触り確かめるプロセスを繰り返す「匠の技術」により実現されており、当社グループでは技術の伝承による専門的人材の育成にも力を入れています。

グリーンプロダクト

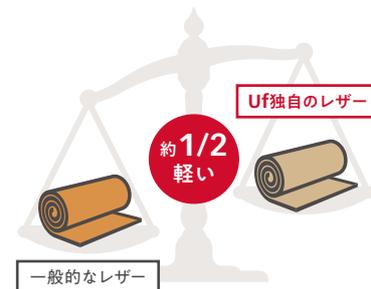
当社の製品は本革と同等の高級感を持つアニマルフリーのレザーとして、動物由来の素材使用を避けたいと考える欧米のお客様を中心に幅広い業界で採用されています。また当社の製品は、本革やPVCと比べて約1/2~2/3の重さという特色を持ち、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガス削減に取り組み1gでも軽い素材を求める航空会社や電気自動車の開発を進める自動車メーカーにも採用されており、お客様のサステナビリティに対する取り組みを製品の提供を通じて支援しています。

私たちはお客様が私たちの製品の品質と特色を長期間にわたって享受していただけるよう、「匠の技術」による製造プロセスの見直しや高度な品質管理システムの導入、更に高い品質と耐久性や長い製品寿命を実現するための基布や樹脂など各種素材に関する継続的な研究開発に取り組んでいます。



ハンブルクで開催された Aircraft Interiors Expoの様子

他に類のない合成皮革





PRODUCT QUALITY & HEALTH

品質と安全

品質管理を徹底するとともに 製品の安全性向上に 取り組んでいます

私たちは日本ならではの技術と国産メーカーからの原材料を駆使して高い品質の製品を日本で作り、世界中のお客様のニーズに応じていくことで成長を遂げてきました。衣料用ポリウレタンレザーの開発から始まった当社の製品は、家具や医療設備だけではなく商業用航空機の内装材や自動車のシート用レザーにも採用されるなど用途が確実に広がっています。

私たちの製品を常により安全かつ健康的な環境で利用できることを目指して、当社製品に含まれる化学物質に関する情報の透明性向上や、当社製品の使用時の安全性や品質管理システムの効果的運用を担保する第三者の認証取得にも取り組んでいます。

Product Health and Safety

より安全な素材や原材料の採用

私たちは、より安全な素材や原材料の採用を進め製品の安全性をより向上させるため、長期的な目標を設定しています。

長期目標

- ▶ 室内空気汚染や化学物質への曝露を抑え、健康的な室内環境を担保する認証を維持・追加取得する
- ▶ 健康や環境汚染の懸念あるいは懸念の可能性のある全ての物質の使用の削減や代替に取り組む

製品に含まれる化学物質に関する取り組み

当社グループでは自社製品に含まれる化学物質に関する情報の透明性向上に努めており、2018年10月には全ての製品ラインに関してHealth Product Declarations (HPDs)を発行しました。Health Product Declaration Collaborative (HPDC)は、建築家、デザイナー、建物オーナー、製造業者、その他290を超える建築関係者が共同で推進する建築材料に関する情報の透明性向上を目指す取り組みで、各社製品の原材料や健康に影響を与える化学物質の情報を開示しています。更に当社グループでは、2019年6月にSCS Global Services社より屋内で使用される製品のVOC放散や品質管理システムの効果的運用を担保するIndoor Advantage Gold Indoor Air Quality (SCS-EC10.3.2014 V4.0)の認証をBrisa®、Ultraleather®及びUltratech™の全商品について取得しました。



Health Product Declarationsのロゴ

品質管理向上への取り組み

当社の製造子会社である第一化成では1999年以降、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を本社、製造拠点、研究所等で順次取得し、2018年にはUltrafabricsも同認証を取得しました。更に、当社グループは自動車向けポリウレタンレザーの生産もしていることから、2019年9月には自動車業界向けの国際的な品質マネジメントシステム規格であるIATF16949をグループで取得しました。第一化成とUltrafabricsの品質保証部門による連携を中心に、同規格の運用を通じて継続的な品質改善による顧客満足度の向上に努めています。



Indoor Advantage Gold Indoor Air Qualityのロゴ

さらに安全な製品の開発

私たちはよりグリーンでより安全な製品をお客様に届けることを目指した研究開発に取り組んでいます。巻頭で特集した製品の中に占めるバイオ(植物由来)原料比率を高める研究だけでなく、お客様に当社製品をより安全に利用いただくことを目指し健康や環境に懸念のある化学物質の使用削減や代替物質の研究、無・低溶剤製品の研究開発にも積極的に取り組んでいます。



IATF16949のロゴ



ISO9001のロゴ



Process Health and Safety

従業員の健康と地域環境への 負荷を徹底管理し、 安全な製造体制を構築します

私たちは、従業員の健康や環境保全を事業の拡大と並立していくために、2018年の生産能力拡大の完了と合わせて、従業員の健康や周辺環境に与える製品製造がもたらす負荷の分析、管理方法の検討をはじめました。2018年には製造過程で使用される溶剤の回収・再利用をより効率的に行うために新しい設備の導入を行い、今年度は高い回収効率を維持しています。

また第一化成では、従業員の安全・衛生管理にも細心の注意を払い、リスクアセスメントを通じて災害と健康障害が生じない快適な職場環境の実現に努めています。Ultrafabricsでも保管・出荷業務などにおいて、従業員のフォークリフト等重機運転資格の管理や庫内業務に関する継続的な研修を徹底することで、倉庫内の安全な労働環境維持に努めています。

従業員と周辺環境安全の確保

私たちは、排気・排水に含まれる危険物質の管理を徹底し、従業員と周辺環境の安全を確保するため、長期的な目標を設定しています。

長期目標

- ▶ 排水が地域社会や環境に悪影響を与えない措置を講じる
- ▶ 排気中に含まれる危険物質を削減・除去することにより工場周辺の大気環境を守る
- ▶ 工場内における物理的・化学的な危険を管理し、安全な労働環境を維持するとともに、長期的な健康への影響についての調査を行う

化学物質の適正管理

廃棄物削減及び再利用推進の一環として、ポリウレタンレザーの製造過程で使用される溶剤の回収及び再利用に取り組んでいます。ベースとなる織物などにポリウレタン樹脂を塗布する際に溶剤と水を活用していることから、製造工程で使用された水には溶剤が含まれています。第一化成の工場には、この溶剤含有排水から水や残渣分などを分離し、溶剤を回収し再利用する設備を設置しています。天候の影響を含め設備内の温度や濃度など様々な状況を常時厳しく管理するために、24時間体制で適切な運転・監視に努めています。また回収された溶剤は生産工程に再度供給されるとともに、生産に不必要な余剰分はポリウレタン樹脂の供給メーカーに販売され、樹脂供給メーカーが再利用しています。2018年の8月には製造工程2ライン化と合わせて回収・再利用のための新しい設備の建設が完了し、運転を開始しました。2019年にはこの設備導入により98%を上回る回収効率を達成しており、更なる環境への負荷低減を実現しています。



埼玉事業所の溶剤回収設備

労働安全衛生推進の取り組み

第一化成では、製造のための各種機械の操作や有機溶剤の使用に伴う、物理的・化学的な危険性を内包する人的作業があります。そのため、製品の安全性確保や環境保全と同時に、従業員の安全・衛生管理にも細心の注意を払い、リスクアセスメントを通じて災害と健康障害が生じない快適な職場環境の実現に努めています。また、事業拡大に伴う生産量の増加に対し、生産機器の増強とともに適時・適切な人員採用を推進し、過剰な労働負荷を軽減する取り組みも継続しています。

Ultrafabricsが担う保管・出荷業務においても、従業員のフォークリフト等重機運転資格の管理や庫内業務に関する継続的な研修を徹底することで、倉庫内の安全な労働環境の維持に努めています。



群馬工場内の様子



Ultrafabrics倉庫内の様子



製品の開発・製造を通じて 持続可能な社会の実現を 目指します

当社グループは資源を保護し、人と地球環境を守る革新的な製品を開発することを目標としています。製品の開発・製造を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを目指し、製品の中に占めるバイオ(植物由来)原料やリサイクル原料の比率を高めたポリウレタンレザーの開発など、お客様により環境に優しい製品の選択肢を提供し、その販売活動に力を入れていきます。

また当社では、事業活動全体で使用する資源を削減し、廃棄物ゼロの実現を目指しています。製造工程で発生した異常による不適合品、最終製品を出荷する際に切り落とした端切れなどの廃棄物を極力削減するために、各工場では、原材料の徹底管理、各製造工程における異常発生管理を通じた不適合品・不良品発生率の改善、製品出荷時におけるカット数量の削減などに取り組んでいます。また、廃棄物の有効利用に向けた取り組みとして、不適合品や廃棄在庫を慈善団体や教育機関に寄贈しています。

Circular Society

資源循環型社会の構築

私たちは、環境に優しい製品の開発や環境に配慮した製造工程で循環型の社会を構築するため、長期的な目標を設定しています。

長期目標

- ▶ バイオマス・リサイクル原料の比率を高め、より循環型社会に適した製品に移行する
- ▶ 資源の有効活用、廃棄される原材料や製品在庫の削減を通じて廃棄物ゼロを目指す

バイオマス・リサイクル原料の比率

当社グループは資源を保護し、人と地球環境を守る革新的な製品を開発することを目標としています。製品の中に占めるバイオ（植物由来）原料比率を高めたポリウレタンレザーであるVolar Bioの開発は、当社グループの持続可能な社会の実現に向けた取り組みの第一歩です。当社グループではこの取り組みを更に推進していくために、2025年までに新商品の50%にバイオ原料またはリサイクル成分を含むこと、2030年までにはその比率を100%まで引き上げることを目標に掲げています。お客様により環境に優しい製品の選択肢を提供し、その販売活動にも力を入れていきます。

またUltrafabricsでは、バインダーボックスやサンプル送付用の封筒、工場からお客様に商品をお届けするための梱包材など、全ての包装を環境に優しいエコパッケージにする取り組みを進めています。

廃棄物・省資源

当社グループでは、資源循環型の社会構築に貢献すべく、事業活動全体で使用する資源を可能な限り少なくすることを目指しています。製造工程で発生した異常による不適合品、最終製品を出荷する際に切り落とした端切れなどの廃棄物を極力削減するために、各工場では、原材料の徹底管理、各製造工程における異常発生管理を通じた不適合品・不良品発生率の改善、製品出荷時におけるカット数量の削減などに取り組んでいます。また製品廃棄物ゼロを目指した取り組みとして、微細なキズや汚れ・色むらにより、お客様に出荷ができない製品や廃棄在庫を地域の課題解決に取り組む慈善団体や教育機関に寄贈することでその有効利用に努めています。



Volar Bioを使用した家具



リサイクル可能で環境に優しいクラフト紙による梱包材



異常発生管理の様子



MATERIAL INNOVATION

イノベーション

Environmental Conservation

環境負荷低減に向け、 重点課題へ積極的な取り組み を加速します

私たちは、高い品質と供給の安定性確保に向け、2018年9月に生産2ライン化を完了しました。一方で、気候変動、資源の枯渇、そして自然環境の劣化がもたらす社会や環境への影響がより明らかになるにつれ、地域社会や世界中の環境意識の高いお客様から、日々の事業活動の中でこうした課題に取り組むことへの期待が高まっています。私たちは、ステークホルダーの皆様の期待に応えていくために生産能力の拡大と合わせて、製品のライフサイクルを通じて、製品が環境に及ぼす負荷を徹底管理し、事業と環境保全の両立に向けた積極的な取り組みを推進していきます。当社グループでは、グループ全体に関わる環境調査を行い、外部・内部の課題や利害関係者のニーズを把握の上で毎年重点課題を特定し、経営目標や評価指標を定めていく体制を構築しました。国内外の各事業所は担当部門長主導により、それぞれの環境影響評価とともに指針の要素を盛り込んだ実行計画を立案し、目標達成の評価方法、重点課題、必要な資源、課題の完了時期などを定め実施します。計画の実施状況は、法規制の遵守状況などとともにマネジメントを含む定例会議で定期的にレビューされ、継続的改善につなげていきます。

エネルギーや水の効率的な使用

私たちは、事業活動における効率的なエネルギーや水の使用を推進するため、長期的な目標を設定しています。

長期目標

- ▶ 事業活動におけるエネルギーの使用効率とクリーンなエネルギー源からの調達を最大化する
- ▶ 原単位あたりのエネルギー使用量を年間1%削減する
- ▶ 生産における水の使用量を削減する

温暖化防止

当社では、製品のライフサイクルの中で排出する二酸化炭素量の削減を目指し、製造及び物流を通じた事業全体での排出量削減に取り組めます。これまで生産能力向上と最新の設備機械導入により、生産効率向上を通じた使用エネルギー削減を推進してきました。

2018年9月に製造工程2ライン化が完了し生産体制が確立したことから、2019年から工場で使用されるエネルギーの管理・測定を進め、原単位あたりの使用量を2020年以降年間1%削減することを目標にしています。

また生産の効率化により空輸を削減し、海運による輸送割合を高めることにより輸送時の使用エネルギー削減にも努めています。2019年は輸送量ベースで空輸量を2018年比約60%削減しました。

水資源の保護

私たちの製品は、独特な柔らかな風合いとしなやかな触感を出すために、製造工程において水を使用しています。2018年に製造工程2ライン化のための工事が完了したことから、生産量の拡大とともに工場の水使用量は増加しています。こうした状況下で地域の水資源を保護するため、排水水質の定期検査の実施や排水処理場建設の検討を開始しました。更に製造過程において使用される水の管理を徹底するとともに、一部工程での水の再利用検討を含め効率的な水の利用を推進することにより、地域の水資源の保護に努めていきます。



群馬工場の生産設備



水質検査の様子





従業員とともに企業文化を 醸成し、地域社会への貢献に 進んで取り組みます

私たちは、全ての従業員が平等に仕事に参画する機会をもち、従業員一人一人がもつ多様な経験や能力、考え方が認められ活かされる企業文化を醸成し、従業員と企業がともに成長することを目指しています。教育・研修制度の整備を通じた人材の育成のみでなく、従業員が安心して力を発揮できるよう、職場での法令遵守や人権への配慮はもちろん、安全な職場環境の確保や過重労働防止にも努めています。

また、グループが拠点をもつそれぞれの地域社会でのつながりを大切にし、その一員として社外の皆様と協同しながら地域社会の持続可能な発展に貢献する取り組みを支援しています。地域社会の課題解決に取り組む団体への寄付に加え、自社で製造した製品を活用した障がい者の自立支援、大学への制作用素材提供を通じた次世代の専門家育成支援、地域大学・学校からのインターンシップ受け入れを通じた就業支援など、自らの事業プラットフォームの特性を活かしながら地域社会への貢献に取り組んでいます。

Employee & Community Wellbeing

従業員と地域社会の幸せ

私たちは、従業員一人一人の成長と幸せを実現し、地域社会の発展に貢献するため、長期的な目標を設定しています。

長期目標

- ▶ 従業員一人一人が幸福と成長を実現できるように、全ての従業員に公平に仕事に参画する機会が確保され、多様な経験や能力が活かされる職場環境の整備を推進する
- ▶ ボランティア活動や慈善活動など地域社会の発展に資する事業への参加や支援を通じて、持続的な地域社会の発展に貢献する

人材の育成

2019年後半から、管理職の意識改革を通じて組織土台を強化し、経営戦略を組織として実現していくことを目的に、経営に関する基本的なスキルや知識を管理職に習得させるための研修を実施しています。またリーダー・班長クラス主導で各部署における業務改善策を検討し、上位職位者に定期的に提言する取り組みを実施することで、組織全体で経営課題に取り組む文化の育成に努めています。更に、第一化成とUltrafabricsの協業推進とグローバルな人材の育成を目指し、若手従業員の短期海外研修を開始しました。



短期海外研修の様子

地域貢献活動



Coral Reef Allianceは世界のサンゴ礁の保護に取り組んでおり、Ultrafabricsは2020年に当社製品Ultraleather® | Reef Proの売上の一部を寄付することでその活動を支援します。



NJPACは教育プログラム、無料イベントやフェスティバルの開催を通じてNewark市やNew Jersey州で芸術や文化活動を振興しており、Ultrafabricsは不適合品®など当社製品の寄贈を通じてその活動を支援しています。

※微細なキズや汚れ、色むらにより、お客様に出荷ができない製品



Curious-on-Hudsonは創造的な応用美術や科学・技術分野を中心に、探求心や新たな知見の習得を促す発展学習プログラムを小・中学生に提供しており、Ultrafabricsは不適合品®など当社製品の寄贈を通じてその活動を支援しています。



Moholy-Nagy University of Art and Design Budapest (MOME)は建築・デザイン・メディア分野で欧州を代表する映像文化の研究機関であるとともに、プロデザイナーを養成する大学でもあります。Ultrafabrics Europeは不適合品®など当社製品の寄贈を通じてその活動を支援しています。



Parquetグループは障がいや疾患のある方がより豊かに暮らしていく基盤づくりや、療育が必要と認められるお子様のいる家族を支援する放課後デイサービスを運営しています。第一化成はParquetグループが当社の不適合品®を活用して製作したトートバッグを購入し、ノベルティグッズとして活用しています。



寄贈先での活用の様子



Parquetグループで製作されたトートバッグ



透明性の高い経営体制を 構築するとともに 責任ある調達を推進します

当社グループでは、成長と環境保全を両立する経営体制の構築に向け2020年1月にISO14001認証を取得しました。第一化成社長をトップマネジメントとするグローバルに統一した環境マネジメント体制のもと、各子会社拠点において環境目標を設定しそのモニタリングを行っています。今後は主要な環境目標の達成状況を外部に報告し、ステークホルダーの皆様からのフィードバックを積極的に収集することで、継続的な改善を図ってまいります。

私たちは、自社とサプライチェーンで働く全ての人々の人権を尊重し、心身の健康や安全を確保することは、重要な責務であると考えます。当社は2018年に環境方針を採択し、その中でサプライチェーンを通じて「製品やサービスを持続可能な方法で調達し、また取引先に対し取引先自身の環境パフォーマンス向上を奨励する」ことを謳っています。当社は、責任ある調達活動を推進するため、原材料メーカー及び生産委託先へ当社のガイドラインに基づくセルフチェックを2020年度より順次実施し、人権や環境、コンプライアンスに関するサプライチェーンにおけるリスク回避に向けた仕組みづくりを推進します。

*Transparent Governance and
Responsible Procurement*

社会的責任

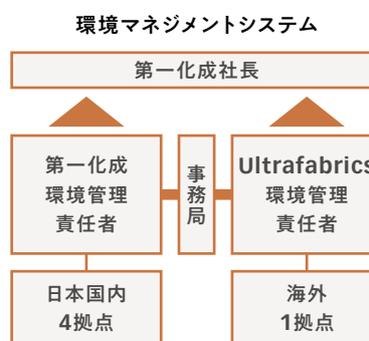
私たちは、全てのステークホルダーに対して社会的な責任を果たしていくため、長期的な目標を設定しています。

長期目標

- ▶ 環境目標に関する活動実績、パフォーマンスを原則年単位で継続的に報告し、ステークホルダーに対する説明責任を果たしていく
- ▶ 原材料の調達元の透明性を向上させるとともに、サプライチェーンを通じた基本的人権の尊重及び環境パフォーマンス向上を目指し、サプライチェーンに関わる全ての取引先に当社と同水準のガイドライン適用を推奨する

透明性と責任のある経営及び報告体制の確立

当社グループでは企業活動が環境に及ぼす負荷を適切に管理し、成長と環境保全を両立する経営をグループ全体で推進していくために、ISO14001認証を取得しました。私たちのビジョン、環境目標の達成、法規制の遵守をグループで徹底するために環境方針を策定し、第一化成社長をトップマネジメントとするグローバルに統一した環境マネジメント体制を構築しています。第一化成に環境マネジメント事務局を設置し、グローバルに環境マネジメントを展開するため、海外を含む各事業所に対する本社規則類の伝達や監査の実行、グループ重点管理項目の取りまとめなど、地域横断的な活動を担っています。環境目標に関する活動実績は、環境パフォーマンスデータとして原則月度単位で収集して把握し、必要に応じて追加施策を実施します。年間の実績データは、今後サステナビリティレポートなどを通じて社外へ開示します。更に、ステークホルダーからのフィードバックを積極的に収集し、次の施策に活かしながら、継続的な改善を図ってまいります。



ISO14001のロゴ



私たちは、サステナビリティを追求する企業集団として、業界全体の変革をリードしていきます

高性能ポリウレタンレザー業界のリーダーとして、私たちはサステナビリティを含むお客様のニーズに応えていかなければなりません。私たちは、人、地球、将来世代を守りながら、お客様の期待を超える先駆的なソリューション提供に取り組み、より良い未来に向けた業界全体の変革を推進すべく透明かつ誠実な方法で私たちの取り組みを社会全体と共有していきます。私たちは「品質と安全」、「イノベーション」、「透明性」を重点領域として、それぞれの領域で環境目標を設定しました。これは、今後数年間でウルトラファブリックス・グループを形作る進化の第一歩です。当社は引き続きサステナビリティに関する研究と投資を積極的に推進し、業界全体の変革をリードしていきます。



ニコール・マイヤー
Nicole Meier

Ultrafabrics Inc.,
Director of Branding,
ブランディング課課長

2019年12月期の業績報告

当連結会計年度における我が国経済は、輸出の減少や原料価格上昇による製造業の低迷がありながらも、堅調な非製造業に支えられて緩やかな景気回復が持続しました。また、世界経済は米中貿易摩擦や英国のEU離脱によって先行きの不透明な状況にあり、米国においては雇用・個人消費は底堅さを維持しているものの、不確実性の高まりを受けて顧客の投資が一部抑制されました。

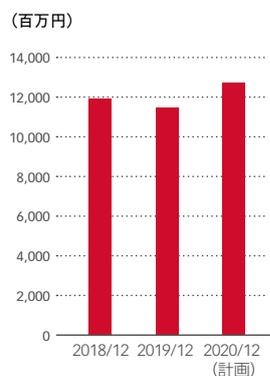
このような状況のもとで当社グループは、戦略的成長分野である航空機や自動車分野で要求される高い品質と安定した供給に対応するために、第一化成を中心に人員及び組織の増強を進めるとともに生産・品質管理体制整備に努め、2019年9月には自動車部品の国際的な品質マネジメントシステム認証であるIATF16949を取得、更に環境マネジメントシステム認証であるISO14001も2020年1月に取得しました。製品開発の分野では、人と地球に優しい製品の開発に取り組み、2019年10月には米国農務省(USDA)のバイオプリファードプログラムの認定を受けた商品「Ultraleather® | Volar Bio」を発売することができました。マーケティング分野では、Ultrafabricsが4月にハンブルグ航空機内装ショーへの出展、5月にはロンドンデザインウィークに合わせてショールームでセミナーを開催、7月にはファッションと持

続可能性に関する様々な課題に取り組むヘルシンキファッションウィークに出展するなど、当社製品のブランド戦略に沿った積極的なマーケティングを行いました。

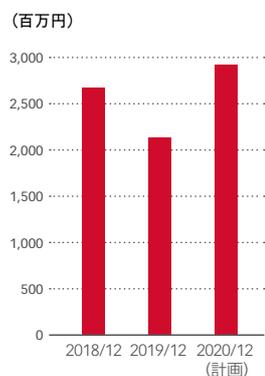
以上の取り組みにより販売拡大に努めたものの、主要な顧客自動車メーカーの内装デザイン変更に伴う自動車用製品の販売の落ち込みが大きく、短期的にはその売上減を他の販売市場で補うには至らず、更にRV用やボート用製品販売の落ち込みが売上減を拡大させることになりました。家具用製品の販売は他市場での販売落ち込みの一部をカバーし、堅調に成長を続けてまいりましたが、下半期に入り家具用を含む多くの販売市場で販売が落ち込んだ結果、売上収益は前年度比マイナスとなりました。また販売の落ち込みにより工場稼働率が低下し、品質関連費用の計上と合わせて原価率の悪化を招くことになりました。

この結果、2019年12月期の売上収益は114億39百万円(前期比3.9%減)、営業利益は9億33百万円(同20.1%減)、税引前当期利益は4億94百万円(同26.5%減)、当期利益は3億65百万円(同3.0%減)となり、2019年8月14日に下方修正致しました業績予想との比較でいずれも下回る結果となりました。

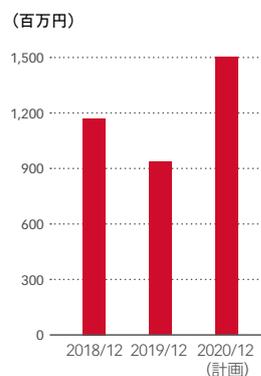
売上収益



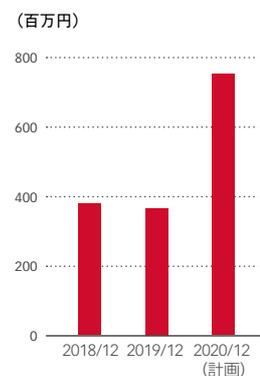
EBITDA



営業利益



親会社の所有者に帰属する当期利益



連結財務諸表

連結財政状態計算書(要約)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
資産		
流動資産	5,224	5,505
非流動資産	22,528	22,512
有形固定資産	5,834	5,413
のれん	7,929	7,831
無形資産	7,663	7,111
その他の非流動資産	1,102	2,157
資産合計	27,752	28,017
負債		
流動負債	4,324	5,553
非流動負債	13,428	12,412
負債合計	17,753	17,965
資本		
資本金	1,409	1,467
資本剰余金	2,306	2,270
利益剰余金	6,757	6,924
自己株式	△333	△259
その他の資本の構成要素	△140	△349
資本合計	10,000	10,052
負債資本合計	27,752	28,017

※当社グループは、2017年12月31日に終了する連結会計年度より国際会計基準(IFRS)を任意適用しております。

連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年1月1日から 2018年12月31日まで)	当連結会計年度 (2019年1月1日から 2019年12月31日まで)
売上収益	11,901	11,439
売上原価	△6,056	△6,152
売上総利益	5,845	5,287
販売費及び一般管理費	△4,669	△4,363
その他の収益・費用	△8	9
営業利益	1,168	933
税引前当期利益	672	494
親会社の所有者に帰属する 当期利益	377	365

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年1月1日から 2018年12月31日まで)	当連結会計年度 (2019年1月1日から 2019年12月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,104	1,215
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,642	△306
財務活動による キャッシュ・フロー	119	△707
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△13	△3
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△432	200
現金及び現金同等物の 期首残高	1,680	1,248
現金及び現金同等物の 期末残高	1,248	1,448

用途別売上収益の概況

用途	売上収益 構成比率	概況
家具用	30.5%	柔らかな風合いに加え、通気性等の高い機能性とデザイン性が評価され、北米を中心に椅子などハイエンドのオフィス用家具や住宅用家具、ホテルやレストランなどの家具・内装材に使われています。通気性に優れたBrisaシリーズの堅調な販売や積極的なマーケティング活動により当期も堅調に推移しました。また、建築プロジェクト向けの営業体制強化により、商社を経由しないプロジェクト向け直接販売が伸びたことも、家具用全体の売上を下支えしました。
自動車用	28.8%	欧米では、動物由来の素材を避ける消費者ニーズに応えるアニマルフリーの高級内装材として、当社製品の採用を検討するメーカーが増えています。当期は、世界の自動車販売台数の落ち込みや、ギアシフトのデザイン変更による当社製品の使用数量減などを背景に前連結会計年度に対して減収となりました。一方シート用製品の販売事業は順調で、自動車用売上全体の半分を占めるまで拡大しています。
航空機用	9.3%	ビジネスジェットの内装を中心に事業を展開してきましたが、大型民間航空機の内装にも採用されるなど着実に事業が拡大しており、当社の戦略上重要な市場と考えております。燃費向上の観点からも軽量な当社製品の採用意欲は高まる傾向にあります。当期は、民間航空機用製品の売上が新規プログラム向け出荷の開始により前連結会計年度の約3倍になりましたが、世界経済の減速によるビジネスジェット用の売上減を補うには至らず航空機用全体では減収となりました。
その他	31.4%	当社では用途別の個別ニーズに合わせてデザイン性、機能性、触感のバランスをとる製品開発を行い、幅広い分野における採用につなげています。当期は、医療用やトラック用製品の売上は堅調に推移したものの、RV用とボート用では中国製品への追加関税や消費者の人氣が小型車種へシフトしたことなどを背景に、当社製品への需要が大幅に減少しました。

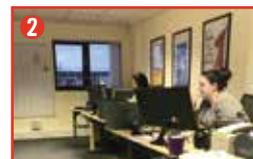
事業概況

主要拠点

販売事業



Ultrafabrics Inc.



Ultrafabrics Europe Ltd.



ロンドンショールーム

製造事業



ウルトラファブリックス・ホールディングス本社
第一化成本社



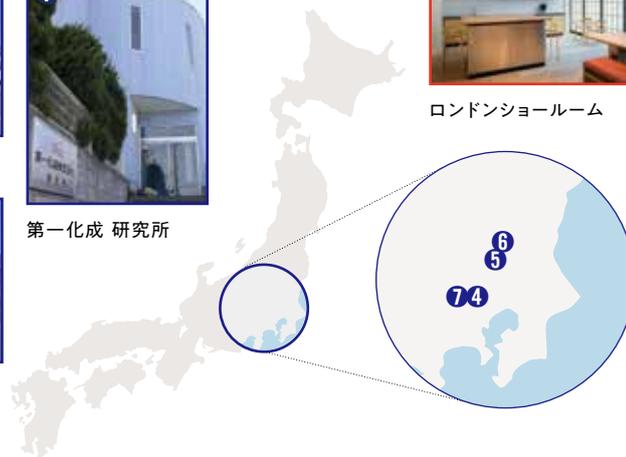
第一化成 埼玉事業所



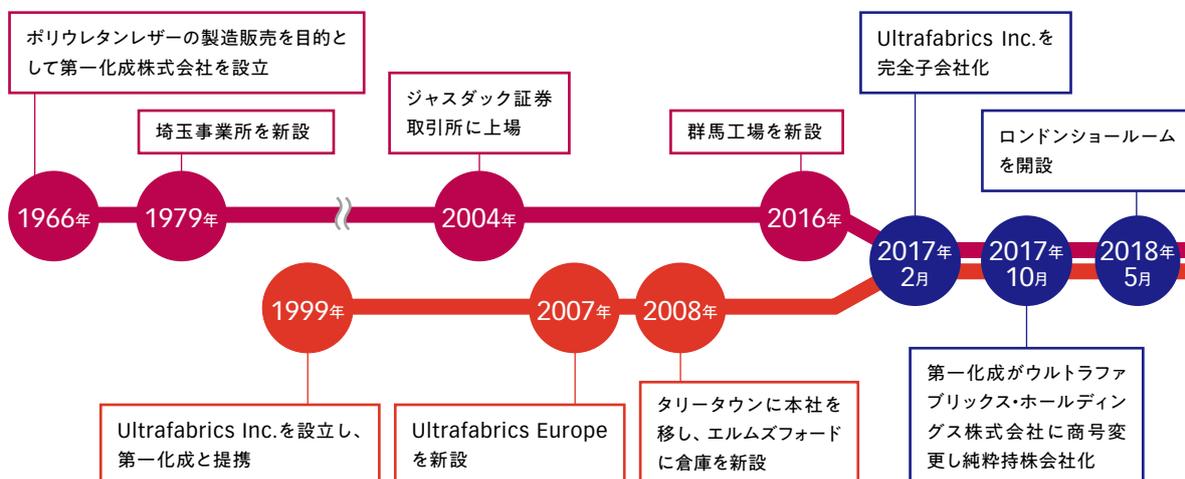
第一化成 研究所



第一化成 群馬工場



沿革



会社概要

会社名	ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社 (英訳名) Ultrafabrics Holdings Co., Ltd.
設立年月日	1966(昭和41)年1月12日
上場日	2003(平成15)年2月27日
取引所	東京証券取引所 ジャスダック市場 スタンダード (証券コード4235)
資本金	14億6,675万5千円(2019年12月31日現在)
所在地	本社 東京都八王子市明神町3-20-6 八王子ファーストスクエア6F
子会社	第一化成株式会社、Ultrafabrics Inc.(2019年12月31日現在)
決算期	12月
グループ主要取引銀行	みずほ銀行八王子支店、りそな銀行八王子支店、さらぼし銀行八王子中央支店、日本政策金融公庫立川支店

グループ事業概要

湿式ポリウレタンレザーの製造及び販売

株式の情報

株式メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
剰余金受領株主確定日	毎年12月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社

株式の状況 (2019年12月31日現在)

発行可能株式総数	27,200,000株	
発行済株式総数	普通株式	6,877,000株
	A種優先株式*	1,850,000株
株主総数(普通株)	1,980名	

※A種優先株式については、有価証券報告書をご参照下さい。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)		みずほ証券本店及び全国各支店、プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いいたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行*及びみずほ銀行の本店及び全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります) ※トラストラウンジではお取扱できませんので、ご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
公告方法	公告方法は電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。	

役員紹介 (2020年1月1日現在)



取締役会長
中野 淳文
第一化成株式会社取締役
Ultrafabrics Inc. Director



代表取締役社長
吉村 昇
第一化成株式会社取締役
Ultrafabrics Inc. Director



取締役
クレイ・
ローゼンバーク
Ultrafabrics Inc.
CEO



取締役
ダニエル・
ベッカーブリマック
Ultrafabrics Inc.
President



取締役
中川 豊彦
第一化成株式会社
代表取締役社長



取締役
田中 勉
第一化成株式会社
代表取締役副社長兼技術管掌



取締役(常勤監査等委員)
三浦 宏平
第一化成株式会社
常勤監査役



取締役(監査等委員)
藤村 俊夫
第一化成株式会社
監査役



取締役(監査等委員)
伊丹 庸之



取締役(監査等委員)
横尾 彰

基本的な考え方

当社では関連する法令・規則を遵守することはもちろんのこと、コーポレート・ガバナンスの観点から株主や最終消費者を含む取引先をはじめ、従業員や地域社会を含めたステークホルダー（利害関係者）に対する責任を果たし、企業価値の向上、株主への利益還元の充実に取り組んでいく方針であります。グループ全ての役職員に対して、コンプライアンスの重要性の周知徹底と、良識に基づいた判断・行動を促すように努めるとともに、経営の公正性と透明性を高め、意思決定及び執行を的確で迅速なものとするために、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置付けています。

企業統治の体制の概要

当社は2017年10月1日より持株会社化するとともに監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。取締役（監査等委員である取締役を除く）及び監査等委員である取締役で構成される取締役会を、原則として毎月、また必要に応じて開催しており、重要事項を協議決定するほか、様々な報告が適宜なされています。

また、社外取締役の要件を満たす監査等委員である取締役3名を含む4名が構成員となる監査等委員会を、原則として毎月、また必要に応じ開催し、監査・監督等を担う機関として必要事項の審議・報告等を行っています。

法務・コンプライアンス部は、監査等委員と連携して内部監査を実施し、定期的に報告を行っています。

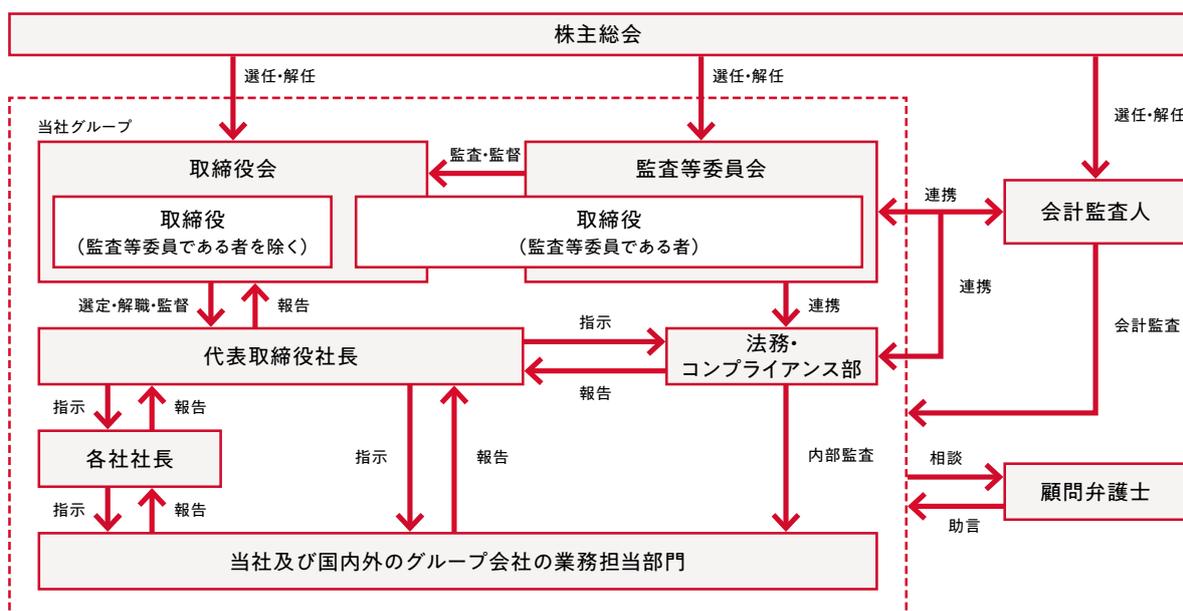
監査等委員会設置会社

当社は、監査等委員会設置会社として、取締役（監査等委員である取締役を除く）のほか、社外取締役の資格要件を満たす監査等委員である取締役3名を含む4名を監査等委員に選任し、取締役会及び監査等委員会を定期的に開催しています。

取締役会への監督機能を一層強化し、取締役会及び監査等委員会がそれぞれの機能を十分に発揮することによりコーポレート・ガバナンスを更に充実させ、透明性及び機動性の高い経営の実現を図ることが、株主をはじめとする各種ステークホルダーの期待に沿うものであると考えています。

なお、会社の機関・内部統制の関係は以下の通りです。

コーポレート・ガバナンス体制図



ウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社

〒192-0046 東京都八王子市明神町3-20-6 八王子ファーストスクエア6F

経営企画部

TEL:042-644-6515

FAX:042-644-6621

URL:<https://www.ultrafabricshd.co.jp>